

【池田氏へのご質問・ご意見・ご感想とそれへの回答】

- ・今日のお話は全体のどの程度のはなしなのか。まれではないのか。
(50代男性 / 自営業)
講演のなかでも言ったと思うのですが、全体からすれば例外的な話です。でもそういう事例が増えてきているのは実感できます。
- ・個人の小さなやりたい気持ち(アイデア)などがあちらこちらで実現し、活気ある町になったら生きるのにとっても楽しいところになり、明るい気持ちになります。大勢の個人の力が形になればいいです。
(50代女性 / 主婦)
私も基本は個人の力だと思います。
- ・きっと最初は独力で始めなければいけないでしょう。(男性 / 会社経営者)
そうでもないと思います。気づかないだけで同じ志の仲間はあると思います。
- ・(市街への車の乗り入れ制限について)車を持たない人たちや、体の不自由な人や病気の時、大きな荷物の処理をどうされてるのか気になりました。
(40代女性 / NPO)
家族や親戚や知人、NPO、福祉施設などなど。でも身よりもなく孤独で不自由なお年寄りなどもやはりいるようです。
- ・加藤さんの初めの質問と同じ視点で、日本とドイツ(ヨーロッパ)の市民社会の行方、違いがあるとしたら何か。
(60代男性 / 団体職員)
難しい質問です。正直わかりません。歴史、文化、現在の状況、そして未来…。地域の行方(未来)は地域の人たちが築いていくものだと思います。
- ・質問での足柄地域の可能性について述べて欲しかった。(男性 / マスコミ)
1日しか見ていないのですが、第一印象は、観光、農業、地場産業、とても恵まれている地域だと思いますし、可能性はたくさんあると思います。その可能性を認識するのも、それを活用するのも地域の人だと思います。
- ・地域の過疎と高齢化は分けることのできない問題だと思いますが、農林業での後継者などとして地域に留まる若者は多いのでしょうか。何か育成機関などあるのでしょうか。
(無記名)
農家の高齢化は同じくどいつでも問題です。一方で、農業を核としながら複合ビジネスで生き残りをかける若い農家も増えています。

農家、林家のための育成機関はしっかりしています。マイスター制度の伝統です。私のホームページの執筆欄を参考にしてください。

・ヴォーバンの新しい住宅の入居率はどのくらいでしょうか。ヴォーバンの影響でどこか空き部屋が増えていませんか。 (無記名)

ほぼ 100%だと思います。約 1500 世帯のうち持ち家が 70%、残りは賃貸か組合形式の運営です。非常に人気があります。都市郊外に出て行っていた若い人々を都市部に呼び戻そう、または引きとめようという試みです。所得税の納税者を増やす！ フライブルクで働いた所得税は、周辺の村でなく、市内で落とせ！という意図が背景にあります。

フライブルクとその周辺地域は、環境が優れていて、交通インフラも整っているの、ドイツでは例外的に人口が増えています。だから、大きな住宅地が必要でした。

・自動車の話はあまり実感がわきませんでした。小田原の場合は郊外にすでに車利用の地区ができてますから、フライブルグの話は直接参考になるとは思えませんでした。スローシティの考え方は参考になりました。 (無記名)

車と折り合いをつけるのは、難しい問題だと思います。ライフスタイルの変換とシステムの変換を同時に行わないといけませんので。

・共同広告活動はとても興味があります。やはり商店街のポイントは、ある町のコンセプトを持った PR 活動は、どのように進められているのか。商店街は黒子に徹して、ボランティア団体がやっているのか。 (40 代男性 / 自営業)

バルトキルヒの PR 協会は、商店街の店主が集まって活動をしています。資金もアイデアも実践もほとんど自分達の持ち出しです。一部市からの補助はありますが。

・成熟した市民社会を達成するために、子ども達への教育はどのように配慮されているのか。次世代の教育について。 (50 代女性 / 市議会議員)

大きなテーマなのでここで詳しく話すことはできませんが、私の個人的な考えは、大人が社会に対して、未来に対してしっかりとした問題意識やビジョンを持って生活していることが基本だと思います。それなくして、子供にああだこうだ言っても伝わらないと思います。

・理想と夢への方向が見えてよかった。小田原でも希望を捨てずに前進すべき。やはり強い意志が今必要と思った。 (50 代男性 / 団体職員)

頑張ってください。

- ・ 日本では住宅用木材はほとんど輸入材中心でしたが、最近県産木材の使用を推進する活動になっているが、ドイツの実情はどうですか。(60代男性 / 建設業)

生産量で言えば、ドイツは基本的に100%国産でまかなえます。でも、グローバル社会の今日、輸入もして、輸出もしています。

- ・ 日本の地域政策はマーケティングで全てを行なおうとしています。私は日本にはマーケティングではなく、日本なりの価値を導くことではないかと思いますがどのようにお考えでしょうか。(男性)

私は、マーケティングは大事だと思いますが、やはりその前に、ビジョンやコンセプトがしっかりしているべきだと思っています。ビジョンやコンセプトは、文化や歴史や慣習や土地の独自性に基づいたものであるべきだと思います。

- ・ 「入替可能性」ということばを想起しました。今後への一つのコンセプトとして、「入替不可能」であることは大切でしょうね。行政 vs 市民の二元対立を超える視座は私も必要と考えます。(男性)

「入替可能性」「入替不可能」どういうニュアンスで使われていますか？ちょっとわかりにくいので説明していただければ幸いです。

- ・ ドイツと日本の大きな違いは、自由と責任の問題と感じる。(男性 / 政治団体役員)

ではどうすればいいのでしょうか？今それを考えています。

- ・ 本ができれば、ぜひ入手したい。(70代男性 / 自営業)

ありがとうございます。来年にはぜひ。

- ・ 話はまとまっており、理解はしやすかったが、ポイントの単語を列挙してある程度で構わないが、ペーパーが欲しかった。(男性 / 政治団体役員)

いろいろ意見はありますが、話に集中してもらうためあえてペーパーは出しませんでした。

- ・ ヴァルトキルヒでのLQMの活動について、解説されている書物 or WEB(できれば英文)がありましたら、教えていただけるとありがたいです。

(男性 / 自営業)

私のホームページにヴァルトキルヒのスローシティや Expo ですこし紹介しています。LQN はオーストリアで始まったものです。以下のページは英語がありません。

http://www.spes.co.at/english/regional_development/index.htm

・ あなたにとっての思想、哲学あるいは宗教はなんですか。 (男性 / 会社員)

特に宗教はありません。哲学や思想についてもあまり考えていません。自分が今やれること、やりたいことをできるだけ時間を費やすようにしています。2年前子供が生まれてはじめて、持続可能性という言葉が頭だけでなくお腹で実感できるようになりました。

・ 講演はものすごく魅力的で引き込まれました。自動車産業との関連にも発展しては？同じく福祉・環境・病院にも、人らしく暮らせる環境を我々は考えていかなければならないと思う。 (女性)

ありがとうございます。これから幅を広げてゆきたいと思います。

・ (池田氏が林業再生には林道を作ることが必要と回答したことに対し) 林道は自然破壊を助長し行政のすることは市民感覚をかけるはなれている。

(60代女性 / 主婦)

林道の定義をはっきりしていませんでした。私が講演で言った「林道」は、木材生産や適切な森林管理、利用のための道です。日本の「スーパー林道」や必要のないところにアスファルトや壁面工事などしている道などとは区別する必要があります。もちろん森の中に道をつくることは、どういうやり方であれ、生態系を壊してしまうことに違いありませんが、木材を利用すること前提にした森であれば、適切な路網があることによって、生産性があがり、伐採による自然へのダメージを削減できます。詳しくは、下記の記事をごらんください。

http://www.ikedainfo.de/Erholung_sanrin.pdf

・ ドイツでは最小単位の住民組織 (日本の自治会に当たる住民組織に匹敵するもの) の向上に行政はどんな形でタッチしていますか? (同上)

いろいろあります。小さな村などであれば、行政職員やそういう組織に入って活躍しているケースもすくなくありません。また、ボランティア職の地方議員は、大体そういう団体に入って普段から政治活動をしています。

・ヨーロッパと日本の根本的違いの1つとして、自由の概念・定義、客観的 VS 主観的...後半の最後の課題はその通りと思い、そういうものを考えながら講演会を聞いていました。今の市民活動が成長・発展していく事を望んでいます。

(男性 / 地方公務員)

私もそれを望んでいます。大企業や大投資家、大都市優先の政治が行われている中、市民ががんばらないと日本は危ないと思います。